

June 7, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米国のメキシコ関税適用先送り観測で108.56円まで上昇

6日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに小反落。終値は108.40円と前営業日NY終値(108.46円)と比べて6銭程度のドル安水準だった。米連邦準備理事会(FRB)による利下げ観測が高まる中、前週分の米新規失業保険申請件数が予想より弱い内容だったことが相場の重しとなり一時108.03円と日通し安値を付けた。その後しばらくは米国とメキシコによる不法移民対策の政府間協議の行方や明日の5月米雇用統計の結果を見極めたいとして、大きな方向感が出なかった。

ただ、事情に詳しい関係者の話として「米国はメキシコへの関税適用先送りを検討している」との報道が伝わると、米国とメキシコの貿易摩擦への警戒感が後退しダウ平均が260ドル超上昇。ドル円にも買い戻しが入り一時108.56円と5月31日以来の高値を付けた。ナイト・セッションの日経平均先物も170円上げている。しかし、米ホワイトハウスが「米政府は依然としてメキシコからの輸入品に対する追加関税の発動を進めている」との見解を示すとやや上値が重くなった。

ユーロドルは反発。終値は1.1276ドルと前営業日NY終値(1.1221ドル)と比べて0.0055ドル程度のユーロ高水準だった。欧州中央銀行(ECB)はこの日、市場予想通り政策金利の据え置きを決定したものの、金利据え置き期間を従来の「2019年末」から「2020年上半期」まで延長する方針を決めた。これを受けて一時1.1203ドルまで売りが先行した。ただ、市場の一部では「他の中央銀行の流れに沿って利下げを示唆する」と期待されていたため、「利上げ時期先送りにとどまった」ことを受けてすぐに反発。ドラギ総裁が理事会後の記者会見で「第1四半期のデータは予想より良かった」「経済見通しについて大幅な悪化を全く見込んでいない」などと発言し、景気に楽観的な見方を示したこともユーロ買いを促し一時1.1309ドルと4月17日以来の高値を付けた。

ドラギ総裁は「不測の事態が起きればあらゆる政策手段で対応する準備がある」と強調し、具体的な手段として、理事会では利下げや資産買い入れ再開の可能性に言及するメンバーがいたことを明かした。

ユーロ円は上昇。終値は122.23円と前営業日NY終値(121.71円)と比べて52銭程度のユーロ高水準。ECB理事会で利上げ時期が再延期されたことが明らかになると一時121.26円まで売られたが、理事会の決定とドラギ総裁の会見は「想定ほどハト派ではなかった」と受け止められると買い戻しが優勢に。ドル円や米国株の上昇に伴う円売り・ユーロ買いも出て、一時本日高値となる122.40円まで値を上げた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米5月雇用統計待ちの中、米墨協議の結果に要警戒か

本日の東京市場のドル円は、今夜発表される米5月の雇用統計を控えて動きづらいつ展開の中、現在進行中の米国とメキシコの関税・移民問題に関する協議の結果を待つ展開となる。

ドル円の上値の目処は、一目均衡表・転換線の108.88円付近となり、3月調査日銀短観大企業・製造業2019年度想定為替レートの108.87円に対応している。

下値の目処としては、年初1月3日のフラッシュクラッシュ時の安値104.87円から4月24日の高値112.40円までの上昇幅の61.8%押しの上昇幅の107.75円、そして、ダブル・トップ(112.14円・112.40円)の下値目標値107.02円となる。

米国とメキシコの協議に関しては、関係筋による「米国はメキシコへの関税適用先送りを検討している」との報道があるものの、ホワイトハウスが「米政府は依然としてメキシコからの輸入品に対する追加関税の発動を進めている」との報道もあり、米国とメキシコの協議の結果待ちとなっている。

米国とメキシコが、関税や移民問題である程度の合意に到達した場合、あるいは、10日からの適用が先送りされた場合は、リスク選好のドル買い円売り・株買いとなる。

しかし、協議が決裂して10日からの制裁関税発動となった場合は、リスク回避のドル売り円買い・株売りとなる。

また、週末8-9日に福岡で開催されるG20財務相・中央銀行総裁会議に合わせて開催される日米財務相会談では、ムニューシン米財務長官が、日米通商交渉に盛り込むことを主張している「為替条項」が協議される模様で、ドル円の上値を抑える要因となる。

さらに、トランプ米大統領は、対中制裁関税第4弾(約3000億ドル)の発動は、28-29日の大阪サミットでの米中首脳会談の結果を見極めた上で決断する、と述べており、10-12日に開催予定の日米実務者級通商協議とともに、米国を軸にした通商問題が相場の重石となり続けることになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◇ 4月家計調査（消費支出、予想：前年比 2.6%）
- 08:30 ◇ 4月毎月勤労統計（現金給与総額、予想：前年比▲0.7%）
- 08:50 ◇ 5月外貨準備高
- 12:50 ◎ 黒田東彦日銀総裁、講演
- 14:00 ◇ 4月景気動向指数速報値（予想：先行 95.8／一致 100.2）
- 8日 20カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議（福岡市、9日まで）

<海外>

- 13:00 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、シンガポールで講演
- 14:45 ◇ 5月スイス失業率（季節調整前、予想：2.3%）
- 15:00 ◎ 4月独鉱工業生産（予想：前月比▲0.4%／前年同月比▲0.4%）
- 15:00 ◇ 4月独貿易収支（予想：195億ユーロの黒字）
- 15:00 ◇ 4月独経常収支
- 15:45 ◇ 4月仏貿易収支（予想：47.42億ユーロの赤字）
- 15:45 ◇ 4月仏経常収支
- 15:45 ◇ 4月仏鉱工業生産指数（予想：前月比 0.3%）
- 18:00 ◎ リムシェービッチ・ラトビア中銀総裁、講演
- 21:00 ◎ 5月ブラジル IBGE 消費者物価指数（IPCA、予想：前月比 0.20%）
- 21:30 ☆ 5月カナダ雇用統計（予想：新規雇用者数変化 8000人／失業率 5.7%）
- 21:30 ◇ 1-3月期カナダ設備稼働率（予想：81.0%）
- 21:30 ☆ 5月米雇用統計（予想：非農業部門雇用者数変化 18.5万人／失業率 3.6%／平均時給、前月比 0.3%／前年比 3.2%）
- 22:00 ◎ 5月メキシコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比▲0.22%）
- 23:00 ◇ 4月米卸売上高（予想：前月比横ばい）
- 23:00 ◇ 4月米卸売在庫（予想：前月比 0.7%）
- 8日 04:00 ◇ 4月米消費者信用残高（予想：120億ドル）
- メイ英首相が保守党党首辞任
- 中国、香港（端午節）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

6日 07:47 トランプ米大統領
「メキシコとの協議で進展はあったが、十分ではない」
「メキシコとの協議は明日再開」
「必要なら中国に対して新たに3000億ドルの関税を課す可能性」
「G20後に中国への関税を決定するだろう」

6日 07:59 エブラルド・メキシコ外相
「今日の会談で全ての問題が解決との期待はなかった」
「会談の焦点はメキシコの移民に関する提案だった」
「今日の対話は関税をカバーしなかった」
「米国とメキシコは互いの立場を拒否しなかった」
「明日の継続協議について楽観視している」

6日 15:58 デイマイオ伊副首相
「イタリアは欧州連合(EU)の債務削減の要求を聞き入れないだろう」

6日 17:32 黒田日銀総裁
「金融規制・監督の最も重要な役割は市場の失敗に対処し、金融危機を防ぐこと」
「情報通信技術の進化は、金融の可能性とリスクの両面を増幅する潜在的に大きな力を持っている」

6日 20:24 カーニーBOE総裁
「委員会の予想通りの経済状態が続けば、物価に対する上昇圧力は高まる可能性」

6日 20:47 欧州中央銀行(ECB)声明
「少なくとも2020年上半期までは金利を据え置くと予想」
「利上げ開始後も保有債券償還金の再投資を長期に渡り継続」

6日 21:14 ロペス・オブラドール・メキシコ大統領
「本日10時(日本時間23時)から米国との協議を再開する」
「米国と合意に至ることを望む」

6日 21:38 ドラギ欧州中央銀行(ECB)総裁
「第1四半期のデータは予想より良かった」
「雇用の増加や賃金の上昇が経済を支える」
「あらゆる手段を調整する用意がある」
「ECBは不測の事態に行動すると決意」
「ECBのスタッフ予想では2019年のインフレ見通しは1.3%(3月時点1.2%)、20年は1.4%(3月時点1.5%)、

21年は1.6%(3月時点1.6%)」
「ECBのスタッフ予想では2019年のGDP成長率見通しは1.2%(3月時点1.1%)、20年は1.4%(3月時点1.6%)、21年は1.4%(3月時点1.5%)」
「経済見通しについて大幅な悪化を全く見込んでいない」
「経済指標は悪くない」
「一部のメンバーが利下げの可能性を主張した」

6日 21:41 プーチン露大統領
「米国との軍事協調を取っている日本に疑問がある」
「日本の国防に疑問を持っているわけではない」
「我々はロシアの安全を考えている」
「日本が我々の懸念に配慮してくれることを望み、信頼の水準を上げたい」
「明日日本との平和条約を決定するかはいえませんが、私と安倍首相はそれを望んでいる」

6日 21:48 カプラン米ダラス連銀総裁
「メキシコとの貿易関係は米国の雇用を支える」
「貿易を巡る緊張感が高まっており、動向を注視」
「世界経済の低成長が米国の成長に波及するだろう」
「利下げが必要との早まった判断を望まない」

7日 02:38 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁
「今年のインフレはやや軟化している」
「現在、金利は中立的だと考える」

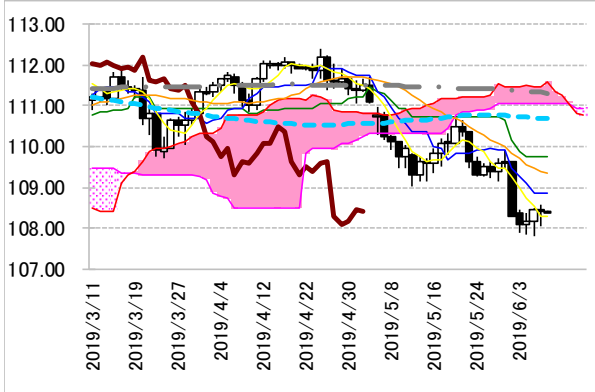
7日 05:43 米ホワイトハウス
「米政府は依然としてメキシコからの輸入品に対する追加関税の発動を進めている」

7日 06:08 ペンス米副大統領
「現時点では対メキシコ関税の発動は10日」
「メキシコとの合意はまだない。協議は継続」

7日 06:30 格付け会社フィッチ
「メキシコ国営石油会社ペメックスの格付けをジャンク級に引き下げ。見通しは「ネガティブ」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

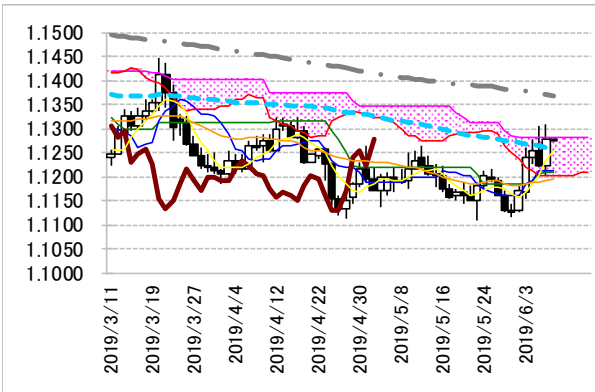


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。ダブルトップ（112.14円・112.40円）形成後の窓（111.07円・110.96円）明け、目標値107.02円を目指す下落トレンドを形成中。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	108.88(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	108.40
サポート1	107.77(1/10安値)
サポート2	107.52(1/4安値)

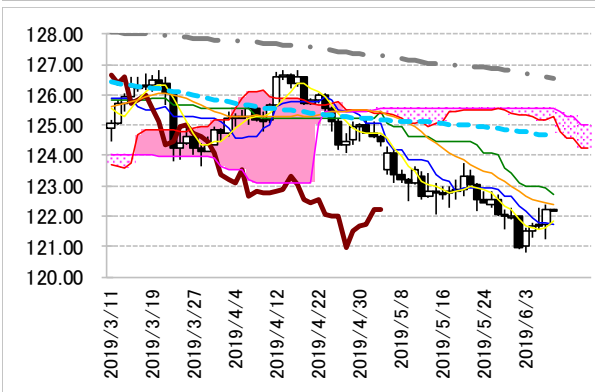


<ユーロドル＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移していることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、一目・雲の上限1.1280ドルを念頭に置き、転換線に支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1391(3/22高値)
前日終値	1.1276
サポート1	1.1213(日足一目均衡表・転換線)

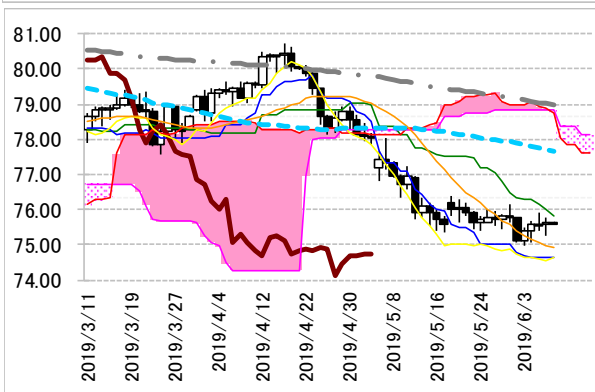


<ユーロ円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線、4手連続陽線で反発の可能性が高まりつつある。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	123.74(5/21高値)
前日終値	122.23
サポート1	121.74(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円＝6/3安値を支持に押し目買いスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線により、反発の可能性が示唆されている。

本日は、6月3日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	76.58(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	75.63
サポート1	74.97(6/3安値)

